

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

3358号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 横田真二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座001110-8-47697

<https://www.zck.or.jp/>



美咲町の新しい庁舎(左上は稲継ゼミ生たち)(岡山県美咲町) [写真提供:美咲町役場]

も く じ

随情情 フォーラム 政活
想報報 策動

井上財政委員長が「社会保障国民会議給付付き税額控除等に関する実務者会議」に出席…
「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律案」を閣議決定
国土交通省 公共交通政策審議官部門…
町村ご当地キャラじまん…
飯島町 長野県飯島町…
町かかわら版…
ふたつのアルプスが見えるまち、飯島町…
町に住んでいてよかったと思ってもらえる町へ…
岩手県住田町長 神田 謙一…
(12)(11)(10)(6)(3) (2)

コラム

都会の学生が学んだ「賢く縮む」覚悟

—岡山県美咲町の挑戦—

早稲田大学政治経済学術院教授 稲継 裕昭

2026年2月、早稲田大学政治経済学部3年のゼミ生17人を連れて、岡山県美咲町でゼミ合宿を行った。稲継ゼミでは、学生たちに地方自治の現場を直接見て学んでもらうために年に何度もフィールドワークに出かける。今回訪問した美咲町は、中山間地域を抱える人口減少や高齢化という課題に、独自の哲学で立ち向かっている自治体だ。都会育ちの学生たち(17人のうち12人は自生ゼミ)にとって、この訪問は、人口減少の最前線何が起こっているのかを感じ、貴重な経験となった。

学生たちに最も大きな衝撃を与えたのは、青野高陽町長から直接伺った「賢く縮む」(スマートシユリンク)というコンセプトである。美咲町の人口は、2005年の合併当初は約1万6,500人だったが、今では1万3,000人を割り込み、将来さらなる減少が避けられない状況だ。町長は「昭和から平成は『次は何を建てようか』という時代だった。今は『何を潰そうか』という時代だ」と言い切る。広げた風呂敷をいかに畳み、人口減少に見合った適正なサイズにまちを作り変えていくか。現実を直視し、あえて「縮む」とは異なる地域の現状を見て、そして、トップの覚悟を聞いて、学生たちは新たな視角を与えられた。

この「賢く縮む」戦略は、ハードとソフトの両面で徹底されている。ハード面では、老朽化した公共施設を大胆に統廃合し、ダウンサイジングを図る。その象徴が、新しい役場本庁舎に公民館、図書館、保健センター、物産センターなどの機能を集約した多世代交流拠点施設「みさきテラス」である。新庁舎は、将来の人口や職員数の減少を見据えて執務ス

ペースを3割以上縮小した。道路沿いのホームセンターがと見間違えるようなその庁舎は、「物置庁舎」とも呼ばれる。建築費を徹底して抑え、いざ訪れる解体時のコストまで計算して設計されており、まさに「賢く縮む」の覚悟を体現している。また、「小中学校を統合し、施設・体制半の義務教育学校である旭学園」や「柵原学園」を開校した。単に施設を減らすのではなく、必要な機能は一所に集約し、より充実させるという「賢い」選択である。

一方で、行政が縮小すれば、当然サービスが低下するという懸念が生じる。そこで町がソフト面で推進しているのが、「小規模多機能自治体」だ。行政に頼るばかりではなく、「自分たちでできることは自分たちで」と、住民自らが地域の課題解決に立ち上がった。例えば、高齢化率が50%を超える倭文西(しとりにし)地区では、毎朝各家庭の玄関先に黄色い旗を掲げ、夕方にしようという「黄旗運動」による独自の安全確認システムを運用している。行政に依存しきるのではなく、自分たちで地域の暮らしを守る仕組みを作り上げている。

「地域が元気のいいのは、人口が多いからではなく、人の交わりの密度、すなわち『人口密度』が高いからだ」と町長は語る。みさきテラスの利用者は、集約後、公民館は7倍、図書館は4倍に増え、物産センターの売り上げも年3割伸びた。「縮む」ことは決して「諦め」ではない。人口が減る現実を受け入れながらも、人と人のつながりを再構築し、豊かさを生み出す美咲町の「賑やかな過疎」の姿。それは、これからさまざまな分野で働くことになる学生たちにとって、持続可能な地域社会のあり方を根底から考え直す大きな機会となった。

写真キャプション

美咲町庁舎は極めて質素な作り。「美咲町」の文字がないと、ドラッグストアやホームセンターと見間違える。しかし、それが「賢く縮むまちづくり」を象徴している。

井上財政委員長が「社会保障国民会議 給付付き税額控除等に関する実務者会議」に出席



令和8年4月15日、「社会保障国民会議 給付付き税額控除等に関する実務者会議」（議長・小野寺五典自民党政調会長）が開催され、地方三団体からのヒアリングが実施された。
本会からは、井上健次財政委員長（埼玉県毛呂山町長）が出席し、「給付付き税額控除」や「食料品の消費税率ゼロ」について意見を述べた。

なお、全国知事会からは河野俊嗣地方税財政常任委員長（宮崎県知事）、全国市長会からは牛越徹財政委員長（長野県大町市長）が出席した。

「給付付き税額控除等に関する実務者会議」は、令和8年2月に発足した「社会保障国民会議」の下に設置され、政府および各党の実務者をメンバーとして、「給付付き税額控除」や「食料品の消費税率ゼロ」について議論を進めている。

ないよう求めるとともに、どのような制度になるにせよ、事務負担が極力生じない仕組みとすることを求めた。

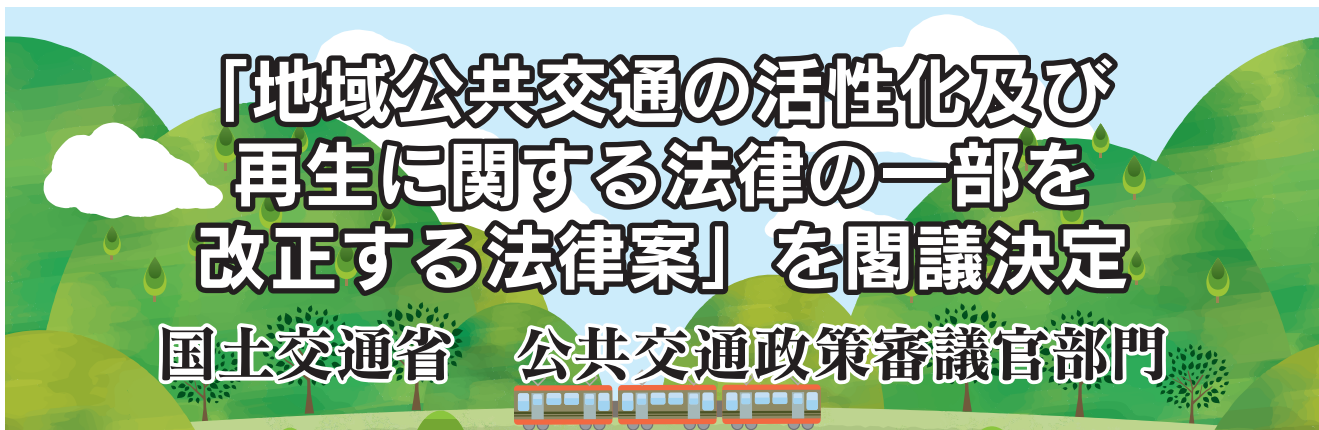
井上委員長は、給付付き税額控除が導入されるまでの間の負担軽減策として、食料品の消費税率を2年間に限りゼロとする案について、地方消費税を含む消費税は町村にとって貴重な税財源であり、さまざまな社会保障サービスを支えていることを踏まえ、代替財源の確実な確保を前提に議論をしよう求めた。

また、「給付付き税額控除」については、地方財政に影響を及ぼすこと

▼会議後、取材に応じる井上委員長(左)



政 策

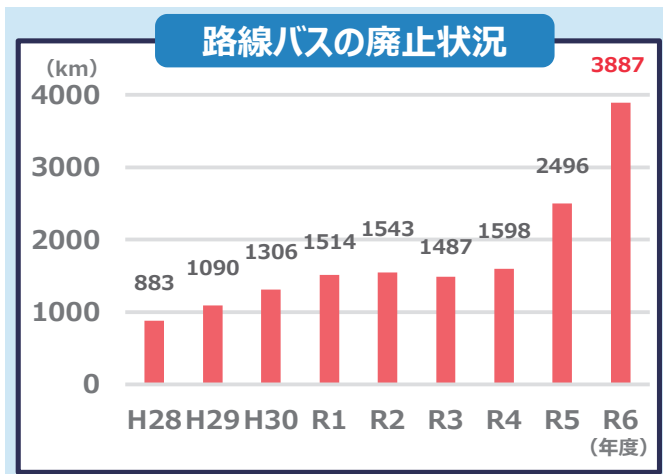


地域公共交通は、買物、医療、教育といった日常生活に不可欠なサービスを利用するための移動を支えているほか、インバウンドの地方誘客を促す観点からも重要であり、まさに地方の「暮らし」と「安全」を守る基盤となるものです。

しかしながら、急速な人口減少・少子高齢化に加え、運転者等の担い手不足により、バス路線等の減便・廃止が相次ぐなど（図1）、必要なサービスの供給が減少する一方、運転免許返納、学校・病院等の統廃合、部活動の地域展開等により、移動手段の確保に対する社会的需要はむしろ高まっており、その結果、全国で約2,500の「交通空白」が発生しています。こうした状況は、日常生活における移動の不便という問題だけにとどまらず、外出・通院機会の減少による健康面への悪影響や、現役世代による子どもや高齢者の送迎負担の増大等により、地域の活力低下、さらなる人口減少という負の連鎖を招く可能性もあり

この方針については、「経済財政運営と改革の基本方針2025」（令和7年6月13日閣議決定）においても位置付けられ、①地方運輸局等に

(図1) バス路線廃止キロ数の推移



※国土交通省物流・自動車局調べ

③実証・実装等に向けた十分な財政支援、④官民連携プラットフォームにおける取組の推進に加えて、⑤新たな制度的枠組みの構築により、国としてこれまでを上回る総合的支援を講じることとしています。

また、交通政策審議会交通体系分科会地域公共交通部会においても、令和7年12月のとりまとめにおいて、「交通空白」解消に向け、地域の輸送資源のフル活用や共同化・協業化等に係る制度設計の早急な具体化を図る必要性が示されたところ

これらの踏まえ、地域の輸送資源のフル活用等により「交通空白」の解消を図るため、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律案」（以下「改正法案」という。）が本年3月10日に閣議決定され、第221回国会に提出されました。本稿においては、改正法案の内容についてご紹介します。

①現行制度の概要
地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（以下「地域交通法」という。）は、平成19年に制定されており、「地域旅客運送サービスの持

2 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部改正

政 策

続可能な提供の確保に資するよう地域公共交通の活性化及び再生のための地域における主体的な取組及び創意工夫並びに地域の関係者の連携と協働を推進」するため、「地域公共交通計画」の作成やこれに基づき実施する事業等について定められています。

地域公共交通計画は、地域にとっ て望ましい地域旅客運送サービスの姿をモード横断的に明らかにする「マスタープラン」として、公共交通事業者や地域住民、学識経験者など地域の幅広い関係者が参画する法定協議会等における協議を経て、地方公共団体が作成するものです。令和2年の地域交通法改正により、全ての地方公共団体に対して計画作成の努力義務が課されており、本年1月末時点で1、206件の計画が作成されています。

また、地域交通法では、地域の実情に応じた取組の実施を円滑化するため、現在8つの「地域公共交通特定事業」が定められています。地域公共交通計画に地域公共交通特定事業に関する事項が定められると、事業を実施しようとする者は「実施計画」を作成し、当該実施計画に基づいて事業を実施することとされており、当該実施計画が国土交通大臣の認定を受けた場合には、独立行政法

人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下「鉄道・運輸機構」という。）による資金の出資及び貸付けや、法律上の手続きのワンストップ化といった特例措置を受けることができます。

(2) 現行制度の現状と課題

国土交通省において、令和7年2月から3月にかけて全国の市区町村を対象に、誰もがアクセスできる移動の足がない、または利用しづらいなど地域交通に係るお困りごとを抱える「交通空白」の調査を行った結果、全国で約2、500の「交通空白」が生じていることが判明しました。

これまで地域公共交通は、交通事業者の事業全体での収益により、不採算路線も含めてその維持が図られてきた側面もありますが、運転者の担い手不足などが進み、地方部のみならず都市部においても維持が困難となってきました。

このような状況においては、これまで地域公共交通を担ってきた交通事業者や市町村を単独として捉えたままでは、地域旅客運送サービスを確保し又は維持することは困難であり、地方公共団体がイニシアチブを發揮しつつ、地方公共団体、交通事業者による取組を基本としつつも、

生活にとつて不可欠な教育、医療・福祉、商業等に係る施設利用者のための輸送を行う者も主体として捉え、交通以外の産業分野とも連携し、複数の主体による連携と協働をさらに推進していくことが急務となっています。

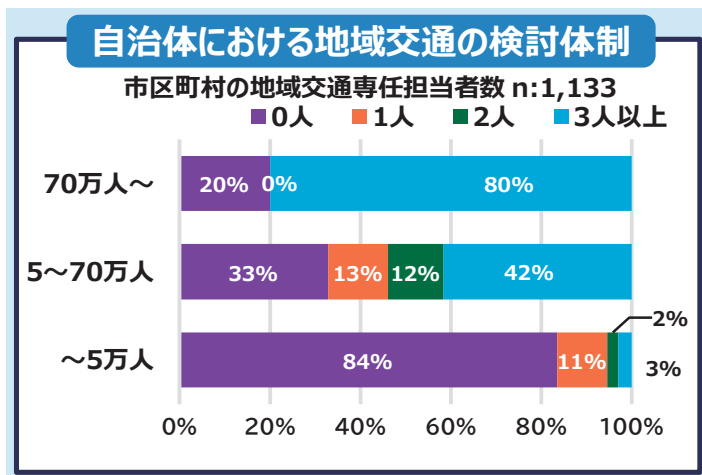
また、地域公共交通の司令塔役として重要かつ多岐にわたる役割を担う地方公共団体では、特に小規模な市町村において、人材やノウハウの不足が課題となっています。実際に、国土交通省が令和6年度に実施した調査においても、人口5万人未満の市区町村の84%で地域交通専任担当者が0人となっており、制度に係る情報・知見の提供や担当者のマンパワー不足に対する支援を求める声が寄せられています（図2）。

(3) 改正法案の概要

① 地域旅客運送サービスの持続可能性確保

バス・タクシー・公共ライドシェアに係る「交通空白」等について、地域の輸送資源のフル活用等により解消を図るため、新たな地域公共交通特定事業として、「自動車地域旅客運送サービス再構築

(図2) 自治体における地域交通の検討体制



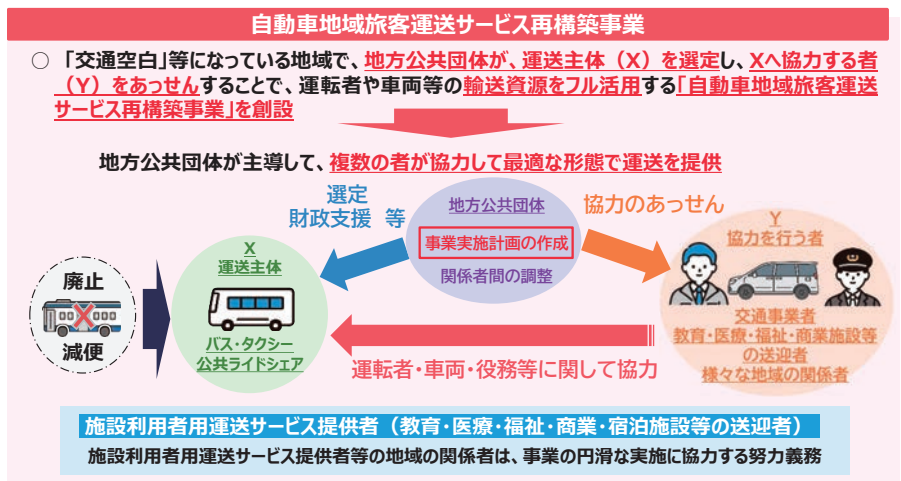
※令和6年度地域交通行政調査より

事業」を創設することとしました。自動車地域旅客運送サービス再構築事業は、「交通空白」等において、地方公共団体が運送主体を選定し、運転者や車両等の輸送資源について、他の交通事業者や後述する施設利用者用運送サービス提供者等からの協力のあっせん等を行うことにより、バス・タクシー・公共ライドシェアによる地域の状況や課題に対応した最適な形態での運送を確保する事業です（図3）。地方公共団体が実施計画を作成し、国土交通大臣の認定を受けることにより、法律上の特

政 策

例措置が適用されることとしてい
ます。
また、学校・病院・福祉施設・商
業施設等の利用者向け送迎サービ
スを行う者を「施設利用者送迎サービ
ス提供者」として位置付け、市町村
が連携・協力を図るべき地域の関係
者として追加するとともに、自動車
地域旅客送迎サービス再構築事業の

(図3) 自動車地域旅客送迎サービス再構築事業の概要



※国土交通省総合政策局作成資料より

このような企業・団体では、その
活動を通じて、様々な知見や、知見
を有する人材が蓄積され、地方公共
団体や交通事業者、地域交通を利用
する住民など、地域の関係者間の調
整役として重要な役割を果たしつつ
あります。
一方で、先述のとおり、地域公共
交通の司令塔役を果たすべき地方公

共同體においては、特に中小規模の
市町村で地域公共交通に関する人材
やノウハウの不足が課題となってい
ます。
そこで、地域交通に関する課題解
決に積極的に取り組むこうした民間
企業や団体の活動を促進し、蓄積さ
れた知見やリソースを活用していく
ため、本法案では、地域の関係者相
互間の連絡調整や連携の促進を行う
企業・団体を「連携促進団体」と
して位置付けた上で、法定協議会の
任意的構成員として明示すること
もに、地域公共交通計画の作成等
の提案権を措置することとしてい
ます。

③モビリティデータの活用
交通事業者が有する旅客の乗降記
録等のモビリティデータは、公共交
通施策の検討・立案・評価を行う上
で不可欠なものとなっています。そ
こで、改正法案においては、モビリ
ティデータの活用を促進するため
の措置を講じることとしています。
具体的には、地方公共団体が地域
公共交通特定事業の実施計画を作成
する場合において、地方公共団体は、
公共交通事業者等に対し、実施計画
を作成するために必要な資料又は情
報の提供その他の必要な協力を求め
ることができ、公共交通事業者等は、

円滑な実施に協力する努力
義務を設けることとしてい
ます。
さらに、実施計画の認定
を受けた自動車地域旅客運
送サービス再構築事業の実
施に要する費用について、
鉄道・運輸機構による出資・
貸付けの対象にすることと
しています。
②連携促進団体の活動推進
令和5年の地域交通法改
正においては、地域交通を
取り巻く厳しい環境を踏ま
え、地域の関係者間の連携・
協働を促進していくことと
されたところ、交通以外の
業種の様々な企業・団体が、
全国各地で積極的に地域交
通に関する課題解決に取
り組んでいただけになるよ
うになっています。

④その他
船舶検査に伴う運休・減便を回避
するため、他の事業者の協力を得て、
船舶の貸渡しや代替運航により、検
査期間中の運航の確保を図る「海上
運送利便確保事業」を創設するほか、
「鉄道事業再構築事業」に関し、民
間の鉄道事業者が実施する鉄道施設
の改良等に対して地方公共団体が支
援する場合でも地方債を起債できる
旨の特例を追加するなど、所要の改
正を行うこととしています。



3 おわりに

国土交通省としては、令和9年度
までの集中対策期間において、全て
の「交通空白」の解消に目途をつけ
るとともに、その将来的な発生を抑
止し、ひいては持続可能な地域公共
交通を実現するため、本法案の提出
をはじめとする制度面での措置とと
もに、予算面での支援を車の両輪と
して、全力で取り組んでまいります。
地方公共団体の皆さまにおかれまし
ても、今後ともご理解とご協力をお
願いいたします。



▲飯島町 ふたつのアルプス

長野県 飯島町

いいじままち



ふたつのアルプスが見えるまち、 飯島町

1. 飯島町って…？

窓を開けた、その瞬間、視界に飛び込んでくるのは、3,000m級の雄大な山々。長野県南部、伊那谷の中央。天竜川に沿って南北に広がるこの地は、西に中央アルプス、東に南アルプスを望む、「ふたつのアルプスが見えるまち」。ところが、飯島町です。標高687m、面積86・96km²。東京から車で約3時間半、名古屋から約2時間半に位置し、人口およそ8,700人の小さな町ながら、魅力に溢れる町です。

2. 自然とともに

飯島町の魅力のひとつは「自然」で

す。中央アルプスを源に流れ出す与田切川は、長い年月をかけて深い渓谷を刻み、清らかな水とともに町に命を育んできました。越百山（標高2,613m）を中心とした中央アルプスに降り注いだ雪や雨が地中深く浸透し、長い歳月をかけて与田切公園地下50mまで流下してきた水が越百の水です。信州の名水・秘水にも選ばれ、硬度29度の軟水は、飲んだ方の健康を維持し、100歳を超える健やかな長寿への願いを込めて命名されました。

また、自然豊かな飯島の四季は驚くほど鮮やかです。

春、やわらかな陽光の中で桜が咲き誇り、田畑に新しい命が芽吹く。

夏、空はどこまでも高く、澄んだ空気の中で緑が一層深くなる。

フォーラム



▲飯島ののどかな原風景



▲実りの秋

この蝶は、どこにでもいるわけでは
ありません。日本では近年の河川改修
や河川敷の樹林化などによって生息地
が急激に減少しており、環境省の絶滅
危惧1B類に指定されるほど、希少で、
限られた自然の中でしか生きることが
できない存在です。きれいな水、幼虫
が食べるコマツナギという特定の植物
が育つ環境、適切に管理された草地。
そのすべてが揃って初めて、この小さ
な命は次の世代へとつながります。飯
島町の天竜川流域は、その貴重な条件
を満たす場所のひとつであり、日本最
大級の生息地とも言われています。

町ではこの蝶を令和7年に「町の蝶」
に制定し、生物多様性の象徴として守

り続けています。その想いを大切にし
ながら、生物多様性の損失を食い止め、
自然環境を回復させることをめざし、



▲町の蝶になりました！



▲青い輝きミヤマシジミ

3. 青い輝き「ミヤマシジミ」とともに

草むらにふと目をやると、ひらりと舞う小さな蝶。ミヤマシジミは、翅を
広げてわずか25〜30mmほど、1円玉
サイズの小さな蝶です。しかしその美
しさは、決して「小さい」の一言では
語れません。

オスの翅は、透き通るような青。角
度や光によって表情を変え、その一瞬
一瞬がまるで違う宝石のように輝きま
す。対してメスは、落ち着いた褐色に
オレンジの模様。控えておりながら、
確かな存在感を放っています。

秋、山々は赤や黄金に染まり、思わず
足を止めて見入ってしまう。
冬、静寂に包まれた白銀の世界が、す
べてを優しく覆い尽くす。

内陸性の気候でありながら、台風の
影響が比較的少なく、冬の積雪も穏や
か。自然の厳しさや優しさ、その絶妙
なバランスの中で人々の暮らしが営ま
れています。

この豊かな環境があるからこそ、農
業もまた盛んです。「飯島」という名
前はその名のとおり「めしのしま」と
言われるほど、古くから米づくりが盛
んな土地です。特別栽培米「越百黄
金」は長野県の基準よりも農薬・化学
肥料の使用を半分以下に抑えて栽培し

ている、安全・安心な自慢のお米です。
昼夜の寒暖差が生み出す甘みと旨み
は、多くの人に愛され続けています。
このお米は、町内の小中学校の学校給
食米としての提供も行っており、生産
者との交流を通じて地元への愛着と感
謝を育み、地産地消を推進しています。
さらに、飯島町ではみずみずしい梨、
香り高い信州伊那栗の果樹栽培、そし
てアルストロメリアやユリといった色
とりどりの花々の花き栽培も盛んで、
どれもこの土地の気候と人の手があっ
てこそ生まれる恵みです。

そして、この自然の豊かさを、一際
繊細に象徴する存在がいます。「ミヤ
マシジミ」です。

フォーラム

地域住民とともに保全活動に取り組んでいます。

ミヤマシジミが舞う風景は、ただ美しいだけではありません。それは、「自然と人が共に生きている証、地域の宝」そのものです。この小さな青い輝きを見つけることができたなら、それはきっと、この町の自然があなたに見せてくれた特別な贈り物です。

4. 伝統・文化とともに

かつて飯島には天領(幕府直轄領)の取り締まりの代官所である飯島陣屋が置かれ、明治時代には伊那県の県庁が置かれるなど、歴史の要所としての役割も担ってきました。復元された飯島陣屋は書院、囲炉裏のある座敷、御膳間などが再現されており、来館者は代官気分での空間に入り込むことができ、「ここで何があったのだろう」と想像を掻きたて、当時に思いをはせることができます。

かつてこの地で人々の暮らした政(まこと)が営まれていた面影は、派手さこそありませんが、その分だけ想像力を掻き立て、風の音や木々の揺れ、囲炉裏の火がまるで当時の様子と重なって見えなくなるかのようです。

飯島町は花火がとても身近な町です。昔から暮らしの中に根付いている



▲歴史かおる飯島陣屋



▲夜空を彩る花火

からです。町内には煙火店が2つあり、花火は特別なイベントではなく、暮らしの中に息づく身近な文化です。

春、千人塚公園の湖面に映る水中花火。夏、夜空いっぱいに広がる祭りの大輪。秋、五穀豊穡への感謝と祈りを込めて、

各地の神社ごと打ち上がる花火。そして年末、大晦日から元日にかけて、除夜の鐘のかわりに響く尺玉の音。このように四季折々に花火を楽しんでいます。地域の祭りや伝統行事も大切に受け継がれており、飯島ならではの文化に触れることができます。

5. 新しい風とともに

そんな歴史ある町に、近年、新たな取組が始まっています。そのひとつが「i i(いい)ネイチャー春日平」です。「i iネイチャー春日平」はトレーラーハウスの宿泊施設で、ホテルや旅館とはひと味違った非日常が体験できる施設です。「飯島流ワーケーション」をキーワードにコロナ禍においてより自然に近い環境でワーケーションを楽しめるよう整備を始めました。

各トレーラーハウスは建物同士の間隔にゆとりがあり、バーベキューをしたり、ドッグランで愛犬とのびのび遊んだり、隣を気にせず思い思いに過ごすことができます。さらに敷地内の畑の野菜は、宿泊者は自由に収穫することも可能です。朝は鳥の声で目を覚まし、昼は畑や自然の中で体を動かし、夜は満天の星を眺める。時計ではなく、自然のリズムで過ごすことができる、そんな場所です。

当初はコロナ禍に地方でのワーケーションの受け入れを目的に、施設や受け入れ体制の整備を進めてきましたが、アフターコロナの状況を鑑みて、町全体の資源を活かしてより幅広い層の人々を受け入れられるよう民間事業者の力も借りながら関係人口創出施設としてバージョンアップをしてきています。

この施設を拠点に、農業体験や地域文化に触れられる体験プログラムができる点も特徴です。例えば、とうもろこしの収穫や田植えなどの農業体験という特別な体験を通して、短い滞在期間でも気軽に飯島町を楽しむことができます。また、地元の人々との交流を通して、田舎ならではの温かさや暮らしの知恵を体感することができます。



▲i iネイチャー春日平全景

フォーラム



特に飯島町の自然に触れることができ、収穫体験は家族連れや海外からの旅行者にも人気です。

この取組は単なる観光ではありません。さまざまな「交流」を通じ、宿泊者と地域住民が接点を持つことで、少しずつ町を知ってもらい、地域への思いを強めていくことに期待しています。i-NEYチャー春日平は、町全体の資源を活かしてより幅広い層の人々を受け入れられるよう関係人口の創出につながる場として今後も更なる展開をめざします。

i-NEYチャー春日平の他にも、飯島町では世界記録にも認定された1万個の風鈴が伊那谷の風で美しい音を奏でる「信州飯島風街道りんりん祭」や、「めしのしま」らしく米俵を担いで走るユニークなマラソン大会など、町民有志から生まれた新たな取組が地域の活性化につながっています。まだ小さな一歩かもしれませんが、このような

◀ i-NEYチャー春日平産の美味しい野菜


● 休刊のお知らせ ●

5月4日付、5月11日付の町村週報につきましては、休刊とさせていただきます。

第3359号は5月18日付の発行となりますので、ご了承の程、よろしくお願いいたします。

飯島町は、決して華やかな観光地ではありません。便利さや刺激とは少し距離を置いた場所かもしれません。だからこそ訪れた人が自然体で過ごせる落ち着いた魅力があります。「特別な何かがある」というより、人と人とのつながりや、身近な自然の美しさなど「当たり前」の良さを感じる町。ぜひ一度訪れて、飯島町らしさを五感すべてで味わってみてください。きっと無理なく、「また来たい」と思えるのではないのでしょうか。ここには自然とともにある、あたたかな暮らしがあります。それが、飯島町です。

長野県飯島町 産業振興課
町公式ホームページ



6. 結びに...

JFMのeラーニングをぜひご活用ください！

地方公共団体金融機構は、自治体職員のための研修環境をeラーニングにて提供しています。

JFMのeラーニングのポイント

① **多様な講義をいつでも受講可能**
地方公共団体の業務に役立つ講義を60以上配信しています。いくつ講義を受講しても**無料**です。

地方財政
財政分析
金融知識
簿記・公会計
先進事例

② **自分のペースで学べる**
講義を分割しながら進めることができるため、業務の状況に合わせて受講できます。

③ **手続きが簡単**
JFMホームページから登録手続きができます。年度当初から随時登録可能です。

自分に合った講義を効率的に学べます！



お問い合わせ
地方支援部

☎ 支援企画課:03-3539-2676
☎ ファイナンス支援課:03-3539-2677
✉ chihoushien@jfm.go.jp (共通)





地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities

町村

ご当地キャラじまん

Vol.190

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとって観光大使!!

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。



千葉県酒々井町

山形県戸沢村



長野県高山村

魅力を発信していきましょ。

「最上川舟下りの里」として知られる戸沢村は、山形県の北部最上地方に位置する豊かな自然に舟唄がこだまする村です。そんな戸沢村の特産物や観光をPRするために誕生したのが、「せんどろ君」です。「舟下りの船頭さん」をモチーフにしているため、村草をデザインした笠と青い法被といった船頭さんのいでたちをしています。2014年6月22日に行われたJR陸羽西線古口駅のリニューアルオープンイベントで着ぐるみがお披露目されたからはイベントには積極的に参加していますが、特に秋に開催される「こぎわ旬の市」には毎回出席しています。村内数カ所に設置されている「戸沢村ガチャ」では、「せんどろ君」の缶バッジが5種類もラインナップされているという人気ぶり。これから愛くるしい笑顔で、戸沢村の魅力を発信していきましょ。

戸沢村公式キャラクター
せんどろ君



10月10日生まれ。見習い船頭さんなので、目下「舟唄」習得に励んでいる。山菜と手打ちそばが大好物。トシ1ドマークの首は310cm、足のサイズは30cm。戸沢村には美味いものが多いので、若干メタボの疑い。

1514年4月6日生まれ。512歳。希望と幸せの種でできている。愛嬌があり、明るく活発。特技は、かんばる皆さんを応援すること。武道と和歌が趣味。好きな言葉は「エニイオー!」。身長155cm、体重130kg。胸回りは胸周51cm、腕まわしは21cm。



酒々井町は、2026年度に町制施行137周年を迎える日本で一番古い町で、原始・古代からつながる悠久の歴史と印旛沼を中心とする豊かな自然が自慢です。その中心を担う国史跡本佐倉城跡の紹介やPRを行うためのマスコットキャラクターとして、文武両道の勝利の神様「勝つタネくん」が2009年に誕生しました。モチーフとなっているのは、本佐倉城3代城主「千葉勝胤」で、当時の歌集に、「地に幸草(さきくさ)幸せ・繁栄)の種をまいた(繁栄の基礎を作った)」と紹介されている名君です。この「幸草の種」と勝胤の「タネ」を掛け合わせて、「勝つタネくん」と命名しました。2012年5月、着ぐるみがお披露目されたからは、町の行事や式典、お祭りなどに参加しながら、酒々井町や本佐倉城跡のPRと情報発信を担っています。

勝つタネくん
千葉県酒々井町



本佐倉城マスコットキャラクター
勝つタネくん

なさをとに見える「高山タカオ」ですが、村内のイベント等に参加しながら、高山村の魅力発信に携わっています。

信州高山村は、四季折々の豊かな自然と、山田温泉、七味温泉、五色温泉などの多くの温泉がある村です。村の観光振興と魅力発信を担う観光協会のホームページで活用するため、2021年に「高山タカオ」が誕生しました。当初はSNSや印刷物などにイラストが登場する程度でしたが、2025年10月に開催された「信州高山村うまいもん市場」よってらっしゃいそば祭り」で着ぐるみがお披露目されたからは、活動範囲が増えていきました。高山村が、岐阜県高山市と間違えられがちなることを自虐ネタとした「飛騨じゃねえし」という口癖がきっかけで高山市との交流も生まれ、話題となりました。目立つことが苦手な若干やる気がなさをとに見える「高山タカオ」ですが、村内のイベント等に参加しながら、高山村の魅力発信に携わっています。

高山タカオ
長野県高山村



年齢はひみつだが、ワインは飲める年齢。上から目線だけど憎めないヤツ。ちょっとびり。特技は危機を察知して早めに逃げる。趣味は、高山村の温泉につかること、美味しいものを食べる。口癖は「飛騨じゃねえし」。

情 報



学びのサポート本格化 旧船越小で平日開所、不登校小中生の居場所に岩手・山田町

岩手県山田町が旧船越小を活用して開設した町教育支援センター「しいれぼ」の本格運用が始まった。全国と同様に不登校の児童生徒が増加傾向にある中、安心できる「居場所」を提供。それぞれのペースで学んだり、興味があることを始めてみるなど「できる」を増やして自己肯定感を高め、学びを丁寧にサポートする。

旧船越小は東日本大震災の津波で被災し高台に再建されたが、児童数減少で2024年3月に閉校。町が活用を探る中、25年6月から試行期間として学校に行きにくい児童生徒を受け入れ、今日13日から平日午前9時〜午後3時半に開所する形となった。

「つまり、いたるところからやり直した」など子ども自身で決めた内容を学習できるほか、目安として時間割を組み、希望する活動の時間帯を選んで来所するなど、利用者の事情に柔軟に対応する。

運動やボードゲームといったコミュニケーション能力を育む活動も取り入れ、調理実習や住民を招いたカフェ運営の機会も設ける。東京学芸大や尚絅学院大(宮城県)の学生によるオンライン学習支援を受けることもできる。

センターの利用は、児童生徒が在籍する各小中学校の出席扱いになり、活動内容や生活の様子は学校と共有する。常勤職員は2人体制で、就学前の発達や言葉への心配事に対応する療育相談機関としての機能も持ち合わせる。

船越小や大沢小で校長を務め、センターに常駐する町教委教育相談室長の多田敢さん(61)は「子どもが信頼できる大人を増やすことも大事で、その一人として関わりたい」と力を込める。

町教委によると、25年度は町内の不登校児童生徒数は46人と年々増加傾向にある。子どもたちが生活リズムを徐々に戻し、学校に通えるようになることを目標とする。松葉寛教育長は「将来的に社会の中で生き抜く力を養う場になってほしい」と願う。

(2026年4月17日・岩手日報)

都心から高速で1時間の「小さな町」 神奈川県松田町独自のロケ誘致策が狙いの

(神奈川県松田町)

「小さな町」の特徴を生かし、神奈川県松田町が独自のロケ誘致策を練っている。撮影場所の紹介、調整を担うフィルムコミッション(FCC)などは設置せず、地元との顔の見える関係性を強みに小回りの利くサポートを約束。コンパクトな組織をフル回転させ、狙うのは「聖地巡礼」による経済効果と松田ファンの獲得だ。

「爆裂 好アクセス!!ロケ?松田でイイじゃん」。町ホームページに躍る軽やかなメッセージは、5人組ポーカーダンスクープ「M!LK(ミルク)」のヒット曲へのオマージュ。仕掛け人の町定住少子化担当室の米山愛莉さん(27)は「たかにはほら笑む。」狙っています。受け入れる私たちもトレンドには遅れない」

町の人口は現在、1万人余り。四半世紀

で2千人ほど減ったがロケ地としてのポテンシャルは高い。都心から東名高速道路などを使えば約1時間。小田急線新松田駅や町役場周辺には素材店やカフェが並び、山道を進んだ寄地区は豊かな緑と清流が訪れた人を出迎える。

これまでも町役場や西平畑公園、旧寄中学校などがロケ地に使われてきたが、町が誘致に本腰を入れたのは2月。飲食、宿泊代など地元への波及効果を見込んでのことだった。

「ついお店も、面白い人もいっぱいいる」(米山さん)のに、露出を増やそうにもFCやロケーションサービスを立ち上げるには予算も人手も足りない。そこで、湯河原町や南足柄市の事例を参考にしながら、組織の小ささを逆手に取った柔軟な支援をPRすることにした。

民宿や仕出し弁当を扱う飲食店は町役場とは顔なじみ。長年培った信頼関係があるから、撮影にはつきものの急な変更も頼みやすい。予定外のシーンの撮影を希望されても、「この人に聞けば何とかなる」という関係性がある」と絶対の自信を持つ。撮影スポットの提案から道路、施設の使用許可まで心配無用という。

現在は既に複数の案件が進行中。狙い目はロケ地が紹介されやすいバラエティー番組で、「特に若いアイドルが出演するとファンが集まりやすい。ここにつくと、オー!松田で取り組んでいきたい」と米山さん。話題作を呼び込み、M!LKの楽曲名のよう「好きすぎて減!」な「松田推し」を増やせるか。

(2026年4月9日・神奈川新聞)

乗り合い車両高齢者の足に 宮崎県綾町が本格運用開始

(宮崎県綾町)

知能(AI)を活用して今月から本格的に運営を始めた、オンデマンド交通「くるっとあや」の出発式が、町公民館文化ホールであった。関係者らが出席し、身近な交通手段になることを願った。

同交通は70歳以上の高齢者や運転免許返納者、障害がある人などが対象。予約状況に応じて乗り合いのミニバン車(6人乗り)計3台が町内の停留所を巡回し、病院やスーパー、銀行、墓地など町内全域にある153カ所の停留所で乗降できる。希望時刻の15分前までに電話か専用アプリで予約すると、AIが設定した最適なルートが運転手側に通知される。利用は無料。運行時間は平日午前8時45分〜午後4時45分。

町は昨年4月から実証実験を開始。停留所は当初125カ所だったが利用者からの要望を受け、山間部にもエリアを拡大。町内全地区での運行が実現した。

式は10日にあり、テープカットや試乗を実施。松本俊二町長は「通院や買い物など、高齢者の移動手段の確保は重要な課題。より愛される交通サービスへと育てたい」と祝辞を述べた。

町は今後、町民の利用頻度が高い町外医療機関などへの送迎も検討する。外出支援バス(3人乗り)も従来通り運行を継続する。予約、問い合わせは町社会福祉協議会高齢者健幸サポートセンター(電話)0985(77)11333。

(2026年4月14日・宮崎日日新聞)

47行政 https://47gyosei.jp/ 本コーナーの記事は施策立案にも役立つ47行政ジャーナルの許諾を受けて掲載しています

随 想

住田町は、昭和30年に世田米町・上有住村・下有住村の1町2村が合併して誕生しました。岩手県の東南部に位置し、町の約9割を森林が占め、中心部には気仙川が流れるなど、豊かな自然に囲まれた地域です。先人から受け継がれてきた伝統や文化を大切にしながら、昨年には町制施行70周年という節目を迎えました。

町では、これまでの歩みを踏まえつつ次の時代に向けたまちづくりを進めています。昨年策定された住田町総合計画では、「医」「食」「住」「地域経営」の4つを政策軸とし、人口が少ない地域でも豊かで活力ある暮



岩手県住田町長 ずみた

神田 謙一 かん だ けん いち

住んでいてよかったと
思ってもらえる町へ

らしを実現することをめざし、各施策に取り組んでいます。

「医」健康でいきいきと暮らせる地域づくり

人口減少が進む中でも安心して暮らし続けられる地域をめざし、保育・医療・福祉の分野で環境整備を進めています。

保育の分野では、保育園業務に保育ICTシステムを導入し、書類作成などにかかる時間を減らすことで、保育士がごとも向き合う時間を確保できるようにしたいと考えています。また、保育園と保護者の情報共有の迅速化と円滑化を図るた

め、スマートフォンアプリの導入を検討しています。

医療・健康づくりの面では、後期高齢者を対象とした人間ドック費用の一部助成を行い、生活習慣病などの早期発見と重症化予防に取り組んでいます。さらに、町内の医療機関を中心に、医療・保健・福祉・介護の連携を強化し、誰もが必要な医療を受けられる体制づくりを進めています。

「食」豊かな暮らしを支える産業振興
地域の農業と林業を将来にわたって守り育てていくための取組を進めています。農業では、各集落の農林業振興会が大きな役割を担ってお

「住」快適で過ごしやすい生活環境の整備

住み続けやすい環境づくりに向け、住まいや移動の面から町民の皆さんを支える取組を進めています。住まいについては、持ち家の整備支援や町営住宅の提供、空き家の活用など、さまざまな選択肢を広げながら、安心して暮らせる住環境を整えていきます。

移動手段の確保に向けても、より便利に使える公共交通の仕組みづくりに進めています。部活動の終了時間に路線バスで帰れない高校生のために乗合タクシーを運行するほか、

り、農地を守る防護網の管理や周辺の草刈りなど、地域みんなで取り組む作業を続けられるよう、町が活動を支援しています。こうした助成により、集落ぐるみで農地を守る体制を支えています。

林業では、森林環境譲与税を活用し、森林が持つさまざまな働きを守り高める取組を進めています。また、林業応援隊員の募集を広く行い、林業に関わる人を増やすことにも力を入れていきます。さらに、FSC森林認証を生かして町産木材の価値を高めるなど、地域の森林資源をより良い形で活用する取組も進めています。

朝の時間帯に世田米方面への路線バスがない地域では、中学生が利用するスクールバスに町民も一緒に乗れるようにする仕組みの実証運行に取り組んでいます。こうした取組を通じて、誰もが安心して移動できる環境づくりをめざしています。

「地域経営」住民主体による支え合いの地域づくり

地域のつながりを大切にしながら、誰もが安心して暮らし続けられるまちをつくるための取組を進めています。コミュニティ活動では、住民同士が支え合い、地域の課題を地域で解決していくための基盤づくり

が欠かせませんが、自治公民館の活動は高齢化や人手不足といった課題に直面しています。このため、まずはモデル地区を選んで集中的に支援し、無理なく続けられる活動の形を探りながら、その成果をほかの地区にも広げていきます。

また、関係人口を増やす取組として、仕事と学びの複合施設「イコウエルすみた」を活用し、町内外の人が交流し、新しい価値が生まれる場づくりを進めています。さらに、行政のデジタル化(DX)にも取り組み、町民の皆さんがより便利に行政サービスを利用できるよう、住民票などのコンビニ交付に向けた環境整備を進めています。

結びに

東日本大震災から15年が経ち、私たちは「当たり前の日常は突然失われることがある」という教訓と、地域のつながりで困難を乗り越えてきた経験を大切にしてきました。震災以降、町を取り巻く状況は大きく変わり、将来を見通すことが難しくなる中で、受け継いできた地域の姿をどのように次の世代へつないでいくかが、今まさに問われています。

こうした思いを胸に、町政を運営していくうえで、総合計画の進み具合や各施策の内容・成果について、さまざまな場面を通じて丁寧に説明しながら地域の声にしっかりと耳を傾け、その意見を施策に反映してまいりたいと考えています。

このような取組を積み重ね、町政への信頼を深め、「この町に住んでいてよかった」と実感できるまちづくりを進めてまいりたいと考えています。